

令和3年度 文部科学省委託
学校安全総合支援事業

「地域連携安全・安心推進事業」

— 実践事例集 —



モデル校：能代市立第五小学校
能代市立能代東中学校

秋田県教育委員会

はじめに

日本海中部地震から38年が経過し、保護者や、教職員の多くが震災を経験していない世代になってきております。また、東日本大震災からも10年以上が経過し、少しずつ震災の記憶や体験が無い児童生徒も増えている中、同じ悲しみを繰り返さないためにも震災の教訓を伝え、未来へ生かすことの必要性を再認識しております。

昨今では、気候変動の影響を受け、従来の想定を超える台風や豪雨による自然災害が毎年のように発生し、全国各地に甚大な被害をもたらしております。昨年も7月には東海地方や関東地方を中心とした豪雨により、静岡県熱海市で土石流が発生し甚大な被害が出ております。また、県内においても、秋田市と由利本荘市では12時間降水量が観測史上最大を記録し、住宅の浸水や土砂崩れにより646世帯に避難指示が発出されました。激甚化する自然災害に加えて、感染の猛威が一向に衰えることのない新型コロナウイルス感染症による複合災害のリスクにも備えが欠かせないなど、今までの経験則が通用しない時代へと突入しております。

さらに、千葉県八街市で発生した飲酒運転のトラックが児童の列に突っ込み、5名の児童が死傷した事故に代表される子どもたちが犠牲となる痛ましい交通事故や、不審者などの生活安全に係る犯罪、スマートフォンやSNSの利用を巡るトラブルなど、新たな危機事象にも対応していかなければならず、幼児児童生徒の安全確保が学校だけでは完結できないことを改めて実感しております。

このような状況に対応すべく、推進地域とモデル校を定めて、学校安全の三領域において、学校・家庭・地域が連携しながら学校安全を推進していくことを目的とした「地域連携安全・安心推進事業」を立ち上げてから5年目を迎えました。

昨年度に引き続き、今年度もモデル校である能代市立第五小学校・能代東中学校には、コロナ禍においても、地域住民や関係機関等の連携を図りながら、地域と一体となった効果的な取組を実践していただきました。県教育委員会といたしましても、今後、その成果を様々な機会に取り上げ全県に波及させるとともに、幼児児童生徒自身がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な社会を実現させるための知恵と行動力を身に付けることができるよう、学校安全に関する取組の更なる強化・充実に取り組んでまいります。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、1年間児童生徒と共に活動し御支援してくださいました中核教員をはじめ両校の教職員の皆様、PTAや地域の関係機関の皆様、能代市教育委員会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和4年3月

秋田県教育庁保健体育課
課長 寺田 潤

目次

はじめに

| | | |
|-----|----------------|----|
| I | 事業の背景 | 1 |
| II | 推進委員会の開催 | 2 |
| III | 実践委員会の開催 | 5 |
| IV | モデル校の取組 | 6 |
| | 第五小学校 | 6 |
| | 能代東中学校 | 9 |
| | 昨年度の取組を発展させた事例 | 14 |
| V | 中核教員の資質向上 | 18 |
| VI | 中核教員による情報発信 | 19 |
| | 「防災小説」生徒作品 | 35 |

「地域連携安全・安心推進事業」

池田小学校
 学校に侵入した不審者により、児童8名が包丁で刺され死亡、教員を含め15名が負傷。



大川小学校
 東日本大震災により74名の児童と10名の教職員が津波により死亡・行方不明。

学校の校門が開いていた。
 教員の一人が学校に侵入した犯人とすれ違っていたが、声掛けをしなかった。

教職員の避難の判断において地域住民も関与していたとの報告もある。
 また、地域住民等も232名中、181名が死亡。

大阪教育大学教育学部附属池田小学校事件 負傷者合意書 前文 (抜粋)
 学校は、子どもたちが保護者から離れて学習する場であり、本来最も安全な場でなければならない。～
 また、附属学校を**設置管理する**文部科学省及び大阪教育大学では、各**附属学校の安全措置の状況を把握**したり、～**財政措置を講じたり**していなかった。
 事件当日においても、不審者に対して**教職員の十分な対応**がなされていなかった。

事故検証報告書 提言 (抜粋)
 提言2 教職員に対する防災・危機管理研修の充実
 文部科学省及び都道府県・市町村教育委員会は、**各学校の防災意識や危機管理意識を高め、具体的に子どもたちを被災から守る実質的な研修を実施**すること。～
 提言8
 各学校は、**保護者や地域組織と積極的に協議**する機会を持ち、学校における防災・危機管理対策に関する**具体的連携**を図ること。

研修の重要性

地域連携の重要性

学校安全指導者養成研修や先進的取組を行っている学校への視察派遣

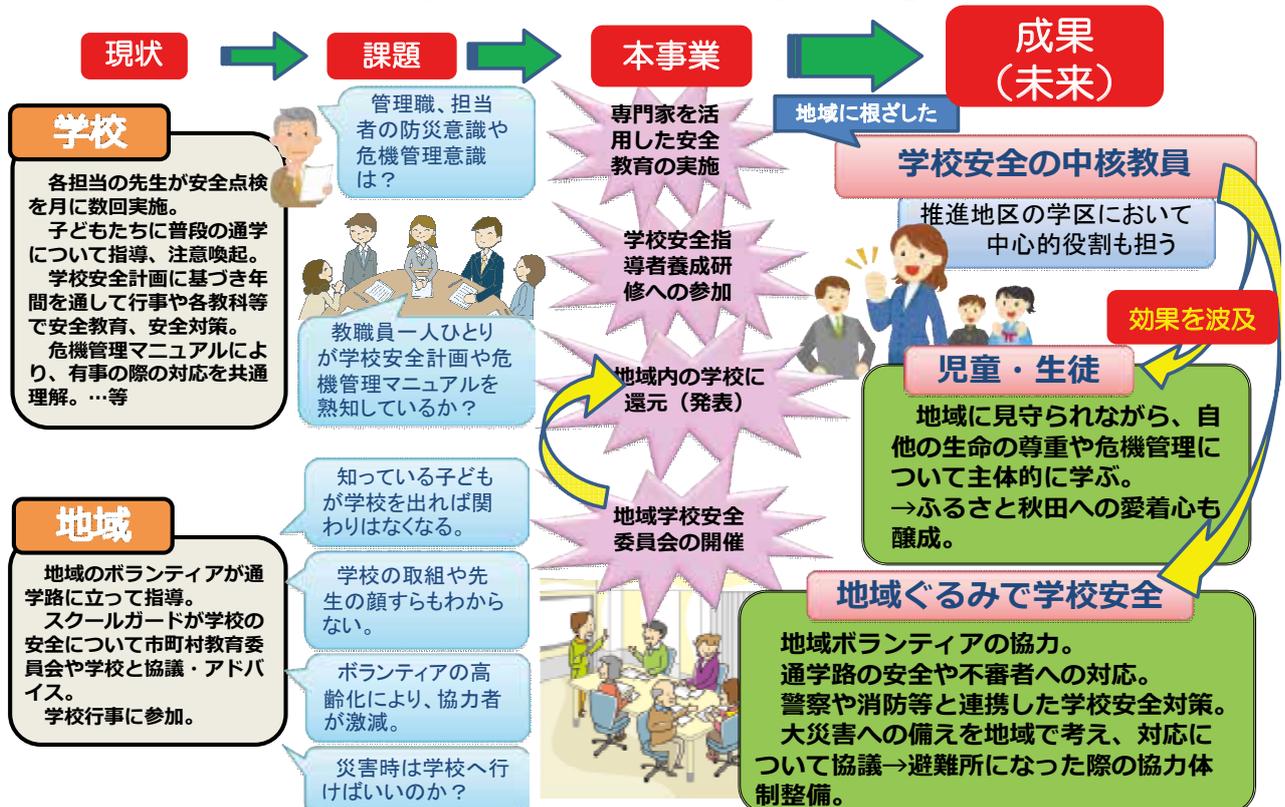
事業立ち上げ

地域学校安全委員会

秋田県教育委員会

期待される効果

「地域連携安全・安心推進事業」



推進委員会の開催

県教育委員会は、推進地域において、学校、地域、関係機関等と連携・協働しながら、事業が円滑に実施できるよう、モデル地域を所管する能代市教育委員会、県総務部総合防災課及び学識経験者等で構成される推進委員会を開催した。

1 第1回推進委員会

(1) 日 時
令和3年7月12日(月) 午後1時30分から3時まで

(2) 場 所
秋田県庁第二庁舎 高機能会議室

(3) 出席者
秋田大学地方創生センター 教授
能代市教育委員会学校教育課 指導主事
県総務部総合防災課危機管理・防災支援班 副主幹
県教育庁義務教育課指導班 指導主事
県教育庁生涯学習課社会教育・読書推進班 副主幹(兼) 班長
県教育庁北教育事務所指導・社会教育班 指導主事
県教育庁保健体育課 課長



水田 敏彦 氏
大山 祐子 氏
長谷川知之 氏
滝沢 剛 氏
佐々木達也 氏
小館 直子 氏
寺田 潤

(4) 内 容

ア 事業説明と実施地区選定の理由

文部科学省の学校安全総合支援事業を活用し、教員等を全国的な研修やフォーラム等に派遣して、学校安全の取組の中核となる教員を養成したり、地域や関係機関と連携した避難訓練や安全講話等を実施したりするなど、地域全体で学校安全に対する意識を高める取組を実施する。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、講師を招聘しての講演会や児童生徒の実践発表など計画通りに実施できなかった活動もあった。そのため、昨年度の成果を更に発展させながら、学校運営協議会を活用し、学校と地域が連携・協働する学校安全体制の構築を図るとともに、コロナ禍の状況に応じて実践方法を工夫しながら、能代市の先進的な取組を全県に普及啓発させていくことが必要と考え、能代市をモデル地域に指定した。

イ 令和3年度地域連携安全・安心推進事業推進委員会設置要綱について

要綱を出席者と確認した。要綱に従い、委員長には学識経験者として、秋田大学地方創生センター教授水田敏彦氏が選任された。

ウ 事業開始の経緯と事業内容説明

過去に起きた2つの事件・事故(大阪教育大学附属池田小学校・東日本大震災における大川小学校)を受け、学校と家庭・地域・関係機関が連携・協働できるような体制を構築し、「自他の命を守る」という高い安全意識をもった子どもを育成できるよう、平成29年度に新規事業として地域連携安全・安心推進事業を立ち上げた。

本事業は「モデル地域をもつ市町村への支援」「学校安全推進のリーダーを育成するための研修や視察等の実施」「地区内の各学校における『学習会・発表会』の実施」「地域連携の活性化に向けた諸活動への支援」と、大きく4つの柱で構成されている。

期待される効果として、中核教員が学校安全指導者養成研修等の各種研修会へ参加し、その研修内容の情報共有等を学校内外で行い、地域の学校に還元していくことで、自らの命を守り抜き、主体的に行動することのできる児童生徒の育成につながることで、地域と連携した質の高い学校安全の取組を進めることができる体制を構築することが挙げられる。

エ 能代市教育委員会より学校安全プログラムと地域連携について説明

本市では、昨年度学校運営協議会の機能を活用した、地域連携安全・安心推進体制の実現を図ることを目標として本事業に取り組んだ。この取組を通して、モデル地域校における災害安全に関する計画・取組の見直しや、地域や関係機関と連携した防災教育の充実につなげることができた。特に、学校運営協議会の評議委員を実践委員に委嘱して年3回開催した実践委員会では、地域の方と情報を共有することができた。今年度は、昨年度の取組を参考に、市内全ての学校で学校運営協議会の機能を活用した、地域と連携した安全・安心推進体制づくりをすすめていくことを目指していきたい。また、各校で実践している防災教育の内容をホームページや学校報等で地域に発信することで、児童生徒だけではなく、家族や地域の防災意識の普及・啓発につなげていきたいと考えている。さらに、関係機関との連携を推進し、防災や減災に関する正しい知識や理解を深めたり、より実践的な訓練を行ったりすることを目標にしていきたい。



昨年度は、地域防災マップづくりや避難所開設訓練で保護者や地域の方の協力を得ながら実践的な活動ができ、大変有意義であった。また、防災小説づくりに取り組んだり、日本赤十字社の方を講師に招いての救急救命講習会も開催できた。

今年度は学校運営協議会設置3年目となる。これまでの成果と課題を生かしながら、地域や関係機関と連携し、ICTを活用したより実践的で効果的な活動を展開していきたい。また、昨年度十分に行えなかった災害安全に関する活動について再度検討をし、実践を積み重ねていきたい。第五小学校においては学習発表会や授業参観、パンフレットづくりを通して家庭や地域への情報発信を行いたい。また、能代東中学校においては、11月の能代っ子ふるさと会議で災害安全に関する事項の取組の発表や市内の他の中学校との情報交換を行い、頻繁に起こる自然災害への備えや地域と連携することの必要性・重要性を確認したいと考えている。さらに、昨年度小・中合同で作成した地域防災安全マップは、地域の方と協力しながら更新していこうと考えている。

今年度も中核教員を中心として防災教育を進めていくことになるが、学校安全指導者養成研修会や先進地視察を通して学校安全に関する資質の向上を図り、地域において指導的役割を担って欲しいと考えている。また、全国成果発表会に参加し、各都道府県担当者や取組の成果を紹介しあったり、情報交換したりしたことを来年度以降の取組にも生かすとともに、学校防災教育研修会等で市内の各学校へ伝達するなど情報共有を図りたい。さらに、災害安全に関わる内容を、市内7エリアすべての学校運営協議会の機能に盛り込み、事業終了後も計画や取組の見直しをしながら、引き続き地域全体で学校安全を推進できるように取り組んでいきたい。

オ 事業に対する意見

委員からは、次の意見等が出された。

○県総務部総合防災課危機管理・防災支援班 副主幹 長谷川 知之 氏

教育活動と自主防災組織と連携を図る仕組みを構築し活動していくことが大事ではないか。地域の方と交流を図り、顔見知りになっていることで登下校中に起きた災害に対しても、地域住民の協力を得ながら対応することが可能になる。是非、地域の方と連携を図りながら、事業を進めていただきたい。

○県教育庁生涯学習課社会教育・読書推進班 副主幹(兼)班長 佐々木 達也 氏

本県の学校は地域と非常に良好な関係を築いている。その中で、コミュニティ・スクールを活用し方針を決定していくのは素晴らしい取組だと思う。コミュニティ・スクールと一体的に取り組むことで、より大きな効果を発揮する学校家庭地域連携総合推進事業がある。その中で地域を中心とした活動を行う地域学校協働活動を活用し、学校側が決めた方針を地域側と共有することでより実効的な体制が整えられると感じる。より多くの方々からの意見を取り入れながら実行していただきたい。

また、学校と地域との関係が良好であると避難所運営や災害後の体制整備に非常に効果を発揮したという事例もある。日々の関係づくりにも積極的に取り組んでいただきたい。

○県教育庁義務教育課指導班 指導主事 滝沢 剛 氏

校種間連携も防災でつないでいければ良いと感じる。それぞれの発達の段階に応じた身に付けさせたい資質能力は違うと思う。小学生であれば身を守るなど防災に関する基礎的な知識であり、中学生は地域防災を担う立場となり、地域での活動を通して有用感を感じたり、高校生は社会の中での役割や自ら課題を見つけて主体的に動ける力が必要になる。小学校、中学校の9年間を見越した指導を通して、将来的に防災に関して主体的に動ける力を身に付けさせることができれば良いのではないか。

○県教育庁北教育事務所指導・社会教育班 指導主事 小館 直子 氏

昨年度は様々な対策や取組をしていただき感謝している。第五小学校では、中核教員が自分のクラスでショート訓練を行ったが、今年度は全学年で発達の段階に応じたショート訓練を実施する予定である。この訓練を実施した成果と課題を広く発信していただきたい。能代東中学校では地域と連携した避難所開設訓練を新型コロナウイルス感染症の感染防止に対応しながら行った。また、2年生を対象に防災小説の制作に取り組んだ。この取組は新聞にも掲載されている。このような取組は他では行われていないので周知していきたいと考えている。



能代市内の各小・中学校の防災担当者が一堂に会して学校防災教育研修会が行われた。2つの学校で行われた取組の成果と課題を共有することで各校の防災教育を見直すきっかけとなった。この研修会の中で、引渡し訓練が難しいと話題になったので、今年度は実践校において引渡し訓練の取組を進めてもらいたいと考えている

今回の事業を令和2年度から3年度へつなげる取組にしてもらいたい。

○秋田大学地方創生センター 教授 水田 敏彦 氏

実践校の課題を共有することも良いことだし、東北圏内においても訓練が進んでいる地域もあるので、先進的な取組を参考にすることも必要になる。

少し視点は異なるが、新型コロナウイルス感染症の対応は防災に似ているところがある。日本の感染症対策は「自粛の要請」が基本となる。罰則を与えるなどして強制的に行うものではなく、もどかしさを感じることもある。防災に関しては「避難の要請」ということになる。避難指示にしても、避難を要請しているわけであり、強制力は無く自主的に避難することを願っているものである。そのような状況ではあるが、要請に従ってもらうポイントが2つあると思う。1つ目は、要請に従わない場合、どのような状態になるかを説明すること。そのために専門家を呼んで情報を提供し理解してもらう必要がある。2つ目は、避難してもらうために地域の方々との信頼関係を築くこと。地域との信頼関係を築き、学校や児童生徒、地域の人がつながることで生命の危機に対して協力し、本気で物事に取り組むようになると思う。そうすることで、災害安全だけでなく交通安全、生活安全についても強い地域になっていくと思う。



また、今年度は東北地方太平洋沖地震から10年の節目となる年である。少しずつ記憶のない子どもたちが増えていくので、同じ東北地方で千年に1度という災害を経験した者として、機会を見つけて児童生徒に伝えていただきたい。

※第2回推進委員会は2月14日(月)に開催しているが、実践事例集印刷原稿入稿日程の関係で掲載していない。

実践委員会の開催

令和3年7月16日(金)

第1回実践委員会

学校運営協議会委員、能代警察署、能代市防災危機管理室等の関係者の方々に、第五小学校と能代東中学校が計画している学校安全に関わる取組について説明するとともに、それぞれが専門的な立場からの視点を交えながら意見交換を行った。

御意見をいただくとともに、両校の取組について協力を依頼



令和3年11月30日(火)

第2回実践委員会

中核教員が自校の取組について報告するとともに、参加した委員から今までの実践内容と今後の取組について御意見をいただいた。

地震以外の様々な災害に対する訓練も必要と確認



第3回実践委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面会議での実施となった。

モデル校の取組 一能代市立第五小学校一

令和3年5月25日(火)

避難訓練

実施時間を教えず実施した。より早く、安全に避難できるように高学年と低学年をペアにして実施したことで、高学年の児童が安全確認をして避難する方法を確認できた。

高学年と低学年がペアで避難



消防隊員による講評



令和3年 6年生総合的な学習の時間

防災学習（防災安全マップ更新）

総合的な学習の時間を活用し、風水害、地震、不審者、獣害など、児童たちから出された様々な観点を基に、昨年度作成した防災安全マップを更新した。



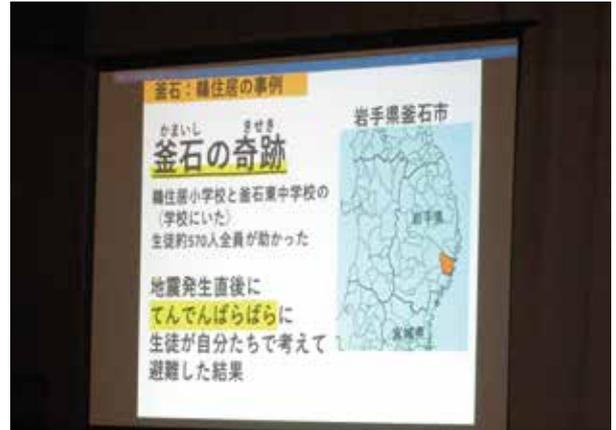
令和3年11月26日(金) 防災教室

防災士の齊藤 亜希 氏を招き、地域住民も参加して地震と津波の基本的な知識と避難行動について学習した。

開会行事



考えて行動することの大切さを説明



講話を聴く児童と地域住民



積極的に質問する児童



質問に答える齊藤氏



令和3年11月26日(金)

減災・防災のための研修会

能代市総務部総務課防災危機管理室室長 皆川 友紀 氏を招き、地域住民と教職員が能代市の災害想定と避難行動について学習した。

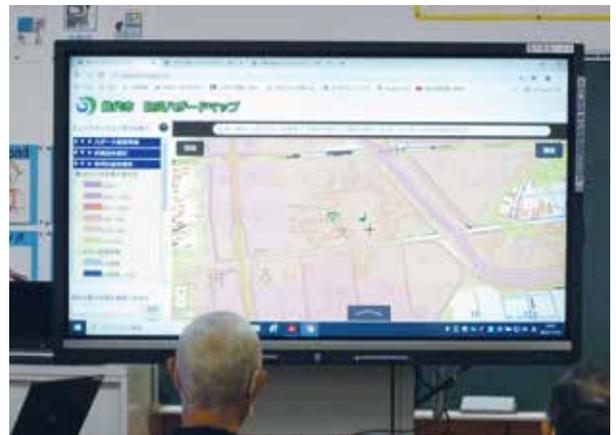
開会行事



災害について映像で確認



能代市のハザードマップを活用し災害想定を確認



市内の災害に関して質問する住民



整理整頓された第五小の備蓄品



モデル校の取組 一能代市立能代東中学校一

令和3年7月21日(水)
防災・救命講習会

大雨による洪水、地震などの災害時に必要な基礎的な知識や技能を身に付けると同時に、自他の命を守るためにはどう行動すればよいのかを学ぶことができた。

市防災部局担当者による講話



消防隊員による説明



消防隊員による実演



胸骨圧迫を体験



AEDを体験



心肺蘇生法を体験



令和3年5月24日(月) 地震・津波想定避難訓練

地震発生後、津波警報が発出された場合の避難経路と避難場所を確認することができた。

校庭に一次避難後、近隣の高台へ



令和3年9月29日(水)・30日(木) 2年生宿泊研修・防災学習館

防災学習館でシミュレーション装置を活用し、地震・煙・初期消火など、防災に関する知識、技術、行動力を高める体験をすることができた。

初期消火を体験



過去の大地震を体験



令和3年8月25日(水)

不審者対応避難訓練・防犯教室

不審者侵入などの緊急時における安全確保の方法と職員の組織体制を確認することができた。

職員による不審者対応訓練



能代警察署署員による防犯教室



不審者と生徒が接触しないための対策の確認



令和3年10月29日(金) 避難所開設訓練

地域住民、能代市防災危機管理室と連携して、コロナ禍における避難所開設訓練を実施した。生徒は避難する立場と三密を避けた避難所を設置・運営する立場の両方を体験した。

役割を理解し手際よく準備を進める生徒



避難物資の準備



非常用発電機（備蓄庫に保管）



投光器（非常用電源を使用）



発熱者の別室への隔離



三密を避けた避難所のレイアウト



受付での避難者カード記入



負傷者の体調確認



避難者への飲料水の配布



市防災危機管理室長からの講評



昨年度の取組を発展させた事例

1 ショート避難訓練（第五小学校）

第五小学校の中核教員が、「地震について知る」「避難の仕方について考える」の二部構成で、ショート避難訓練を全学年で実施した。

1年生の避難姿勢



2年生による避難方法の確認



災害リスクの確認



廊下での避難行動



教室での避難行動



令和3年11月17日(木)

2 全国「防災小説」オンライン交流会（能代東中学校）

北海道、秋田、埼玉、愛媛、高知の中学校5校が取り組んでいる「防災小説」の発表会に参加し、他地区の防災想定を理解すると同時に他県の中学生と交流を深めることができた。

交流会開始



発表会を参観する生徒



他県の交流会参加校の様子



参加した5校の生徒



他校の発表を聴く生徒



能代東中学校からの発信



能代東中学校の取組の発表



能代東中学校の取組の発表



能代東中学校代表生徒の発表



慶應義塾大学
准教授 大木 聖子 氏の講評

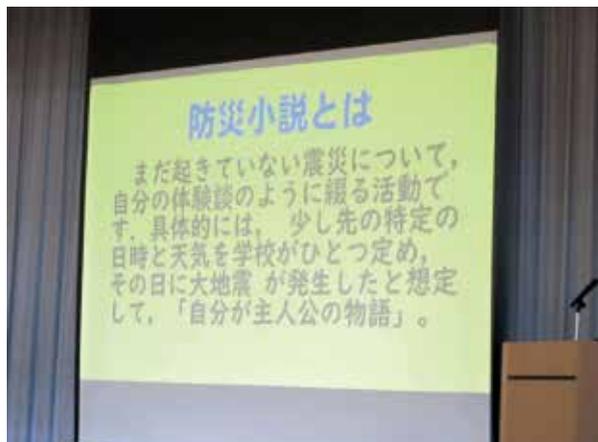


令和3年11月30日(火)

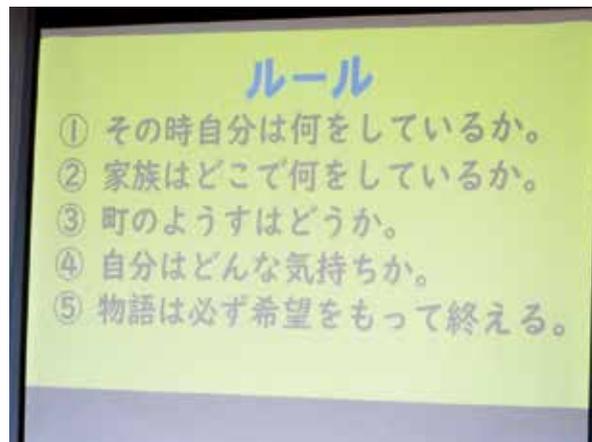
3 「防災小説」 全校発表会（能代東中学校）

第五小学校の児童、学校運営協議会委員の方も参加し、能代東中学校生徒の発表を聴いて、能代市の災害想定や避難方法などを共有し理解を深めることができた。

防災小説とは



防災小説のルール



3名の生徒が発表



児童の感想発表



中核教員の資質向上

今年度の研修会等は全てオンラインでの参加であったが、最新の情報を踏まえながら、実践的な研修を積み、学校安全教育の資質向上を図った。

1. 令和3年度学校安全指導者養成研修

- ◇期 日：令和3年8月2日(月) から令和3年8月31日(火) までの期間中
任意の3日間を選択して受講
- ◇主 催：独立行政法人教職員支援機構
- ◇共 催：文部科学省

学校安全の三領域に関して必要な知識を習得するとともに、研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を育成することができた。

2. 令和3年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム

- ◇期 日：令和3年11月10日(水)
- ◇主 催：宮城県教育委員会
東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター

地域と連携した防災体制の構築について、様々な取組事例を学ぶことができた。

3. 令和3年度「学校安全指導者研修会」並びに学校安全総合支援事業 「全国成果発表会」

- ◇期 日：令和4年1月28日(金)
- ◇主 催：文部科学省

午前中は、「マップ・マヌーバー」という方法による災害時の行動について課題を抽出し、その改善を話し合う実践訓練を見学したり、与えられた条件を元に状況を判断し、最適な行動を導き出す、「ケーススタディ」という学習を実践したりと中身の濃い研修を行うことができた。また、午後からは本事業の実践発表を聞き、各県の担当者と学校安全の推進体制の構築や実践的な学校安全の取組について、情報を交換することができた。

中核教員による情報発信

令和4年2月3日(木)

学校防災教育研修会（オンライン）

独立行政法人教職員支援機構主催の学校安全指導者養成研修、文部科学省主催の学校安全指導者研修に参加した中核教員が、研修内容やモデル校での取組をモデル地域の学校安全担当者へ情報発信した。

第五小学校 秋元 圭 氏
による実践発表



能代東中学校 高橋 毅 氏
による実践発表



研修会の様子



学校安全総合支援事業

能代市立第五小学校令和3年度の取組

令和3年度の能代市立第五小学校主な取組

- ・ ショート避難訓練
- ・ 避難訓練
- ・ 防災学習
- ・ 防災教室
- ・ 防災・減災のための研修会

ショート避難訓練

- ・ 1回の所要時間 10～15分
- ・ 様々な場面を想定した訓練を行う。
(授業中, 給食, 休み時間など)
- ・ 活動の流れ
 - ①災害イメージをもたせる。
 - ②災害リスクや避難行動の取り方について考える。
 - ③訓練する。

- ①災害イメージをもたせる
- ②災害リスクや避難行動の取り方を考える



③訓練する。



・避難訓練



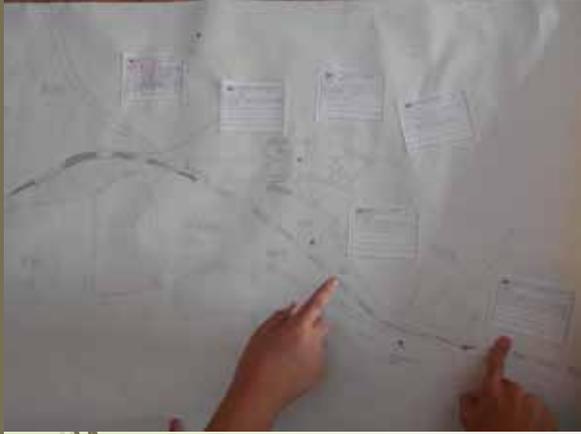
・避難訓練



・避難訓練（不審者対応）



・ 防災学習



・ 防災教室



・ 防災減災のための研修会



地域連携安全・安心事業 防災教育実践報告

能代市立能代東中学校 教諭 高橋 毅

実践事項

- 防災・救命講習会の実施 7月
- 避難訓練 1回目 地震想定 5月
- 2回目 不審者侵入対応 8月
- 3回目 避難所開設訓練 10月
- 4回目 火災想定 1月
- ※緊急地震速報訓練参加：シェイクアウト訓練 11月
- 2年宿泊研修で防災学習館を訪問
- 防災小説づくり（2年生）
- 第1回全国「防災小説」交流会参加：オンライン
- 実践委員会 7月、11月、1月（中止）

防災・救命講習会



能代市防災危機管理室の方から
防災対策についての講話



能代市消防本部の方による
救命講習会：救命入門コース



一次救命措置について説明

班に分かれて実践練習をしている様子



避難訓練 (地震想定)



1年生が机の下にかくれている様子



高台への2次避難をしている様子

避難訓練 (不審者侵入対応)

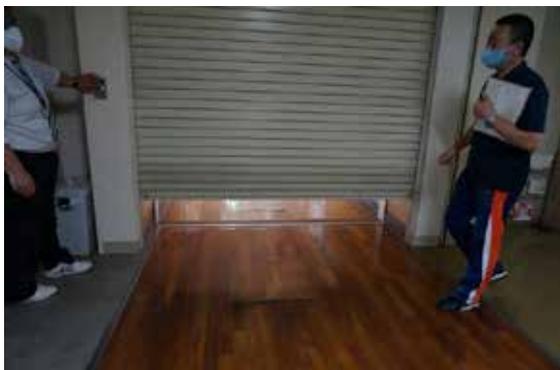
○職員の様子確認 と 生徒が不審者と接触しない対策



職員が不審者を確保する様子



生徒との接触を避けるためのバリケード設置



不審者と生徒の接触を避けるため
防火扉をおろしている様子



能代市警察署の方による防犯教室

避難訓練 (避難所開設訓練)



委員会毎に役割分担し避難所を開設



地域の方と発電機の使い方を確認



地域住民のによる避難者の受付



非常食の配布ボランティアを行う中学生

2年 宿泊研修（防災学習館にて）



ゆれの大きさにしゃがみ込む生徒



初期消火体験

防災小説とは

まだ起きていない震災について、自分の体験談のように綴る活動です。

具体的には、少し先（およそ1ヶ月後）の特定の日時と天気を学校がひとつ定め、その日に大地震が発生したと想定します。その時自分は何をしているか、家族はどこで何をしているか、自分はどんな気持ちになるか、町の様子はどうか、などを原稿用紙 2、3 枚に綴ります。「物語は必ず希望をもって終えること」というルールの下で、生徒一人一人が、まだ起きていない未来の地震をもう起きたことかのように、自分が主人公の物語として綴ります。

今回の設定

ねらい：避難訓練や防災対策を自分事と捉え、災害時にどう行動するべきか考えたり、災害に対する備えをしたりしようとする態度を育てる。

内 容： 3月14日（月）13：00頃

「自分はどう行動し、何を感じているか。」

「家族の様子や町の様子はどうなっているか。」

「小説は、ハッピーエンドで終わる。」

学年での防災小説発表会



小グループで自作小説を発表し合う様子

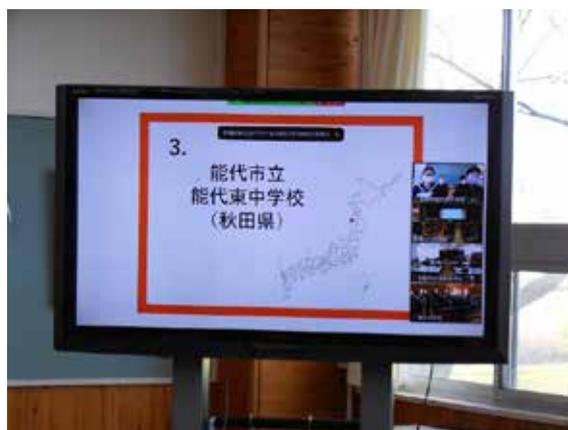


選ばれた代表者が発表している様子

全国防災小説発表会



発表会に臨む代表の4名



オンラインで行われた発表会の様子

防災小説 全校発表

第五小6年生と全校生徒の前で、防災小説を披露しました。



生徒の感想

2年生男子

小説の中で、あんしんライトや災害用伝言ダイヤルという言葉を使いました。また、家族の避難場所をおとも苑にしていますが、これは津波が来たときで、それ以外の時は第五小学校に避難することを家族で確認できました。小説を書いて、具体的に考えたことが、きっと役に立つと思います。

2年生女子

私は命の危険にさらされたことが少ないので想像して小説を書くことが難しかったです。でも、いざ書いてみると、その場の情景が自然に浮かんできてとても面白かったです。非常持ち出し袋やラジオをもって避難するところも自分らしくかけました。書いていて、自分の家の棚は固定されていないことやハザードマップがなく危険ということに気付きました。身近に危険が潜んでいることに気付ける良い機会になりました。

成果と課題

○成果

- ・避難所開設訓練を委員会毎にすることで、年度が替わっても役割を継続していくことができる。
- ・防災小説を書くことで、これまでの避難訓練や防災に対する知識がたまり、日常生活の中で防災や減災について考えるようになった。

▲課題

- ・新型コロナウイルス予防の観点から、岩手で予定していた修学旅行ができなくなったり、1月の火災想定避難訓練が延期となったりした。コロナ禍における計画や実施の仕方を検討する必要がある。

能代東中学校 防災小説（生徒作品）

「防災小説」

2年 女子

空は曇っており、まだ冬の寒さが残っている3月14日月曜日。午後1時頃、震度6弱の地震が発生した。

この日は休日。犬の散歩から帰ってきた私は、部屋でこたつに入って漫画を読んでいた。物語がクライマックスにさしかかり気持ちが高揚していた直後、部屋全体が大きく揺れた。勉強机の上に積み上げていた本の山がダダダダと崩れ落ち、スマホの警戒アラームが大きな音で鳴る。すぐにこたつの電気を止め、這いつくばりながら机の下に潜って脚をつかむ。揺れは、始めは弱かったが徐々に強くなり、また弱くなるの繰り返しだった。本棚に綺麗に並んでいた漫画本が床に散らばり、こたつの上においていたコップが割れて落ちている。地震が自分に襲いかかるようで、死にたくないと思った。揺れは1分位で収まった。

揺れが収まったのを確認してから、部屋のドアを開けながら居間に向かった。居間では隠れていたテーブルから出てきた祖母がいた。

すぐに玄関に置いてある非常用持ち出し袋とラジオを持って外に出る。同じように非常用持ち出し袋を持つ人や、道路わきに止めた車から出てくる人など、様々な人がいる。地震の状況を知るためにラジオをつけた。そして、地震による津波の可能性は極めて低いことを知った。そのことに安心しつつ、近所の人と一緒に避難所である鶴形小学校へ向かった。

道路には亀裂が入り、隆起しているところもあって走りづらかったが、小学校は家から近いところだったので、落ち着いて行動できた。しかし、そこには母と父はいなかった。

もしかしたら無事に避難できていないのではと心配になった。慌ててスマホを見ると、20件くらいの着信があった。電話をかけて、2人とも別の場所に避難していることが分かった。家族全員の無事を確認出来てとても安心した。

「防災小説」

2年 男子

3月14日、突然「地震です。地震です。」と街中に緊急地震速報のサイレンが鳴った。

僕は、友達2人と鶴形沼で釣りをしている。警報が鳴り始めて、数秒後のことだった。地鳴りとともに震度7強の激しい揺れに襲われた。「やばくね」「どうする」としゃがみながら叫んだ。しゃがんでいても転びそうになる。沼を見ると、魚が次々と跳ねている。1分ほどで揺れが収まった。「とりあえず家に帰ろう」と思った。しかし、家に向かう途中でさらに地震が起こったり、道路に亀裂があったりするかもしれない。「だめだ。家に帰る途中で何が起こるかかわかんないよ。だから、近くの避難所に逃げよう。」

急いで東部公民館に向かって自転車のペダルを漕いだ。道路には亀裂が入り、木が倒れているところもあったが、なんとか無事に公民館に着くことができた。すでにたくさんの人が避難していて、すぐには中に入ることができなかった。

ようやく中に入って少し落ち着いたら、家族のことが心配になった。父は家にいる。祖父母は家の近くに住んでいる。その時、緊急ダイヤル171を思い出し、かけてみたが家族の安否は分からなかった。とても不安になる。

日が暮れ始め、その日は友達と3人で避難所に泊まることにした。翌朝になっても家族の安否は確認できない。余震が収まった頃、家に帰ることにする。家に着くと、向かいの家の木が倒れ、向かいの家を真二つにしていた。急いで家に入ると、棚が倒れ、物が散乱している。父と兄がいた。「爺さんと婆さんは大丈夫だったの?」「大丈夫だったよ。」それを聞いてとても安心した。しかし、母の姿がない。数日経っているのに帰っていないのでとても心配だった。夕方5時頃、ようやく母が帰ってきた。とてもとても安心した。

「防災小説」

2年 男子

3月14日月曜日、午後1時。僕は、家でアイスを食べながらテレビを見ていた。母は2階の掃除をしていた。そのとき、突然大きな揺れに襲われた。急いで机の下に隠れると、台所の床からペットボトルが転がってきた。皿が落ちて何枚も割れる音がした。2階にいる母は大丈夫なのか、上から物は落ちてこないか、いつ揺れは収まるのか、不安な気持ちでいっぱいだった。

揺れが収まった後、母が階段を駆け下りてきた。2人でテレビをつけようとしたら停電になっていた。僕は技術の授業で作った「あんしんライト」を使って地震についての情報を必死に集めた。母もあわてて荷物をまとめている。すると、ラジオから津波が川を逆流し、米代川が氾濫したというニュースが流れた。

荷物を持って外に出ると、家の前の道路には大きな亀裂が入り、庭の松の木は根元からゴッソリと抜けて倒れていた。外に出ていた祖父母に「一緒に逃げよう」と言うと、祖父母は「ここは今まで浸水したことがないから、ここに居た方がいい」と言った。僕の家付近には、米代川とその支流の桧山川が流れている。浸水しないとは言い切れない。祖父母は中々納得しなかったが、僕がやっとのことで説得した。浸水の恐れがあるときは、高台のおとも苑に避難しようとして家族で決めていた。僕たちは、迷わずおとも苑に向かった。そこには同じクラスの友達や地域の人も避難していてホッとしたが、仕事先の父と連絡がつかない。母は目に涙を浮かべている。ラジオからは、建物の倒壊や火災の発生、土砂崩れの情報などが止むことなく流れている。浸水被害もハザードマップの予想をはるかに超えていた。

東能代地区は、浸水せずに済んだものの、高台から見下ろす先には多くの住宅が崩れ、何カ所からも煙が上がっているのが見えた。ここから見た景色を僕は忘れない。

そのとき災害用伝言ダイヤルを思い出し、かけてみると、父から「私は無事です」というメッセージが入っていた。僕は急いで母の元に駆けだした。



令和3年度文部科学省委託
学校安全総合支援事業
「地域連携安全・安心推進事業」実践事例集

令和4年3月発行 秋田県教育委員会

〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号
電話 018-860-5204 FAX 018-860-5207



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます